

2019年（令和元年） 9月27日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <https://oil-info.iecej.or.jp>

■ 概況

9/12~9/18のNYMEX・WTIIは、54.85~62.90ドルの範囲で推移した。

9月19日は、サウジの被害施設の早期復旧見通しに対する懐疑的な見方が台頭し、小幅に反発した。他方、熱帯性低気圧が接近しており、需給緩和要因として、上値を抑えた。10月限終値は前日比0.02ドル高の58.13ドル。

週末20日は、米中貿易協議の行方に警戒感が出て、小反落した。ただ、週末や納会を控えたポジション調整のための買戻しも入り、下値は重かった。ペーカーヒューズ社発表の米国稼働石油掘削機は、719基で前週比14基減、5週連続の減少。10月限終値は前日比0.04ドル安の58.09ドル。

週明け23日は、サウジの石油施設の早期復旧見通しに対する疑問や米国のイラン批判の高まりを受けて、反発した。イランは、7月にホルムズ海峡で拿捕した英国タンカーを解放したが、国連総会に向けてのポーズとの受け止めが多かった。この日から中心限月に繰り上がった11月限終値は前週末比0.55ドル高の58.64ドル。

24日は、サウジの石油施設復旧に関する見通しが報道機関によって異なるなど情報が錯綜、先行き不透明感を残したものの、国連総会ではトランプ大統領が中国を名指しで批判するなど米中摩擦の先行き懸念が拡大、反落した。11月限の終値は前日比1.35ドル安の57.29ドル。

25日は、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、原油が前週比240万バレル増と2週連続の増加、前週の米国内産油量の1,250万b/dへの増加の報告で、続落した。11月限の終値は前日比0.80ドル安の56.49ドル。

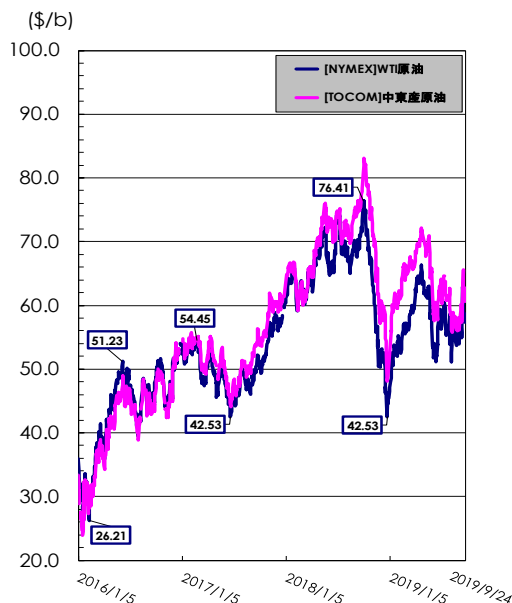
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(11

月渡し)は9月12日~18日の間58.30~67.00ドルの範囲で推移した。9月19日63.00ドル、20日63.90ドル、24日63.80ドル、25日61.90ドルで推移した。

為替は9月12日~18日の間108.09~108.25円の範囲で推移した。9月19日108.43円、20日108.06円、24日107.69円、25日107.11円で推移した。

そのような中で、9月24日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.9円の値上がり、軽油は同0.7円の値上がり、灯油は同7円の値上がり(18%ベース)だった。ガソリン・軽油・灯油ともに9週ぶりの値上がりだった。この週(9月第4週)の原油コストは値上がりで、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、1.5円~2.5円の値上げに分かれた。

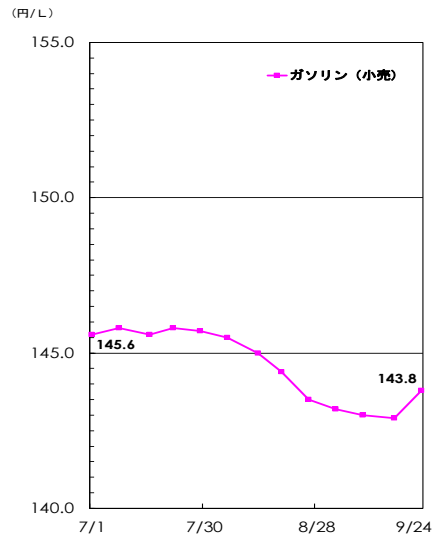
原油		今週	前週比	前年比	
需給	原油処理量 (千kl)	9/15 ~ 9/21	3,202	▼ -42	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	81.8	▼ -1.0	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	9/21	12,138	▼ -64	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	9/24	60.61	▼ -5.04	▼ -16.8
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	9/23	58.64	▼ -4.26	▼ -13.4
	原油CIF単価 (\$/bbl)	8月下旬	67.32	▼ -0.51	▼ -9.64
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	44,875	▼ -1,071	▼ -9,015
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	105.97	▲ 1.72	▲ 5.36
	外国為替TTSレート (¥/\$)	9/24	108.69	▲ 0.51	▲ 5.33



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/15 ~ 9/21	966 ▲ 64	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	942 ▲ 4	▲ -	
	輸出	"	91 ▲ 66	▲ -	
	在庫	9/21	1,529 ▼ -68	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/17 ~ 9/23	58.8 ▲ 2.2	▼ -10.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/17 ~ 9/23	58.4 ▲ 4.5	▼ -11.2
		(TOCOM/中部)	9/20	60.3 ▲ 5.5	▼ -7.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/24	143.8 ▲ 0.9	▼ -10.5	

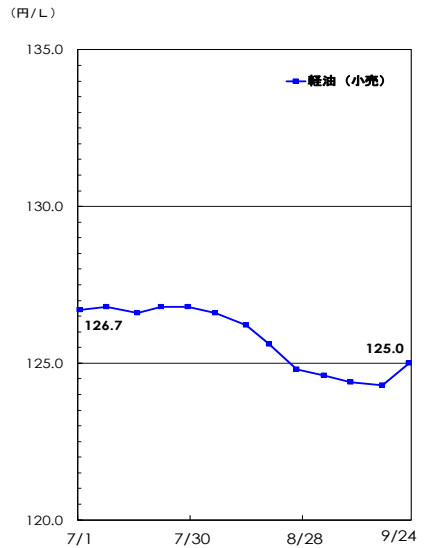
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

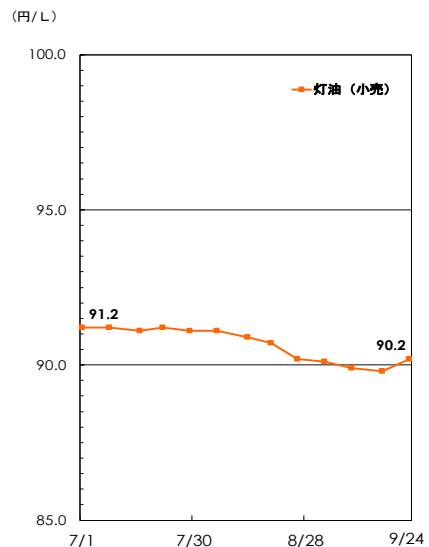
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/15 ~ 9/21	784 ▼ -8	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	680 ▼ -9	▲ -	
	輸出	"	206 ▼ -9	▲ -	
	在庫	9/21	1,483 ▼ -103	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/17 ~ 9/23	60.6 ▲ 2.2	▼ -10.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/17 ~ 9/23	61.1 ▲ 1.9	▼ -10.2
		(TOCOM/中部)	9/20	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/24	125.0 ▲ 0.7	▼ -7.8	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/15 ~ 9/21	158 ▼ -126	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	166 ▲ 67	▲ -	
	輸出	"	0 ▼ -48	➡ -	
	在庫	9/21	2,509 ▼ -8	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/17 ~ 9/23	60.7 ▲ 2.3	▼ -10.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/17 ~ 9/23	60.0 ▲ 2.5	▼ -11.5
		(TOCOM/中部)	9/20	61.5 ▲ 3.3	▼ -10.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/24	90.2 ▲ 0.4	▼ -4.2	



■ 関連情報

1 海外/原油

9月25日のNYMEX市場WTI原油は、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、原油が前週比240万バレル増と市場予想(同20万バレル減)に反する2週連続の積み増し報告があり、米国内産油量も前週比増加し1,250万に達したことから、需給緩和懸念が広がり、続落した。また、国連総会におけるトランプ大統領の中国批判は値下がり要因となったが、ロウハニ・イラン大統領の制裁下の交渉拒否発言はイランをめぐる緊張を高め、下げ渋りの要因となった。11月限の終値は前日比0.80ドル安の56.49ドル、12月限の

終値は前日比0.76ドル安の56.32ドル。

EIAによると、9月23日時点のガソリンの小売価格は、前週比10.2セント値上りガリの1ガロン2.654ドル(76.4円/㍗)、ディーゼルは同9.4セント値上りガリの3.081ドル(88.7円/㍗)となった。ガソリンは2週連続の値上り、ディーゼルも2週連続の値上りだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2019年9月15日～9月21日に休止したトッパー能力は36.1万バレル/日で、前週に対して3.0万バレル/日減少した(全処理能力は351.9万バレル/日)。原油処理量は320.2万klと、前週に比べ4.2万kl減少。前年に対しては20.9万klの減少。トッパー稼働率は81.8%と前週に対して1.0ポイントの減少、前年に対しては5.3ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてガソリン、ジェットが増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/7.1%増、ジェット/52.7%増、灯油/44.5%減、軽油/1.0%減、A重油/2.9%減、C重油/18.7%減。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比4.9万kl減)。軽油の輸出は20.6万kl(前週比0.9万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比では軽油、C重油が減少となり、その他の油種で増加となった。前年比ではC重油が減少となり、その他の油種で増加となった。ガソリンの出荷は94.2万kl(対前週0.5%増)と3週連続で増加となり、5週連続で100万klを下回った。ジェット13.9万kl(対前週78.2%増)、灯油16.6万kl(対前週67.9%増)、軽油68.0万kl(対前週1.3%減)、A重油24.9万kl(対前週13.4%増)、C重油11.5

万kl(対前週9.9%減)。

(単位：千KL)

	今週 (9/15～9/21)	前週 (9/8～9/14)	前週比	
ガソリン	942	938	▲ 4	(0%)
ジェット燃料	139	78	▲ 61	(78%)
灯油	166	99	▲ 67	(68%)
軽油	680	689	▼ -9	(-1%)
A重油	249	220	▲ 29	(13%)
C重油	115	127	▼ -12	(-9%)
合計	2,291	2,151	▲ 140	(7%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

9月21日時点の在庫は、全油種で取り崩しとなった。前年に対しては、灯油が積み増しになり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは152.9万kl、前週差6.8万kl減。前年に対しては7.1万kl少ない。

灯油は250.9万kl、前週差0.8万kl減。前年に対しては1.4万kl多い。

軽油は148.3万kl、前週差10.3万kl減。前年に対しては6.9万kl少ない。

A重油は67.5万kl、前週差3.6万kl減。前年に対しては3.6万kl少ない。

C重油は190.9万kl、前週差4.8万kl減。前年に対しては22.0万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (9/21)	前週 (9/14)	前週比	
ガソリン	1,529	1,597	▼ -68	(-4%)
ジェット燃料	829	876	▼ -47	(-5%)
灯油	2,509	2,517	▼ -8	(-0%)
軽油	1,483	1,586	▼ -103	(-6%)
A重油	675	711	▼ -36	(-5%)
C重油	1,909	1,957	▼ -48	(-2%)
合計	8,934	9,244	▼ -310	(-3.4%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

9月17日～23日の原油価格は、前週比で値上がりし、為替レートも円安で、原油コストは大きく値上がりしたものと見られる。

陸上スポット価格は、9月17日～23日の間、ガソリン111～113円台で大きく値上がり、軽油59～61円台で大きく値上がり後やや値下がり、灯油59～61円台で大きく値上がりして推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン113～114円台で値上がり、軽油61～62円台で大きく値上がり、灯油57～

58円台で値上がりして推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン110～114円台で値下がり後大きく値上がり、軽油59～62円台で大きく値上がり、灯油59～61円台で大きく値下がり後わずかに値上がりして推移した。

次週の元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、1.5円～2.5円の値上げに分かれた。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

9月17日～23日の製品スポット市況は、9月10日～16日平均と比べ、全油種・全取引で大きく値上がりした。

直近の陸上スポット価格(9/17～9/23千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、前週比で、ガソリンは2.2円の値上がり、灯油は2.3円の値上がり、軽油は2.2円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、前週比で、ガソリンは2.6円の値上がり、灯油は1.9円の値上がり、軽油は2.7円の値上がりだった。

先物価格は、前週比で、ガソリンが4.5円の値上がり、灯油は2.5円の値上がり、軽油は1.9円の値上がりだった。

9月第5週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、1.5円～2.5円の値上げに分かれた。

(RIM) (単位: 円/%)

陸上ローリー4地区平均	今週 (9/17～9/23)	前週 (9/10～9/16)	前週比
レギュラー	58.8	56.6	▲ 2.2
灯油	60.7	58.4	▲ 2.3
軽油	60.6	58.4	▲ 2.2

(TOCOM) (単位: 円/%)

期近物/終値 [平均]	今週 (9/17～9/23)	前週 (9/10～9/16)	前週比
レギュラー	58.4	53.9	▲ 4.5
灯油	60.0	57.5	▲ 2.5
軽油	61.1	59.2	▲ 1.9

※上記価格は税抜き価格

参考値 (9/17～9/23実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 2.2	▲ 4.5	▲ 3.3
灯油	▲ 2.3	▲ 2.5	▲ 2.4
軽油	▲ 2.2	▲ 1.9	▲ 2.1
A重油	▲ 2.0		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

9月24日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.9円高の143.8円、軽油も同0.7円高の125.0円、灯油は18%ベースで同7円高の1,624円(1%ベースでは同0.4円高の90.2円)。ガソリン・軽油・灯油ともに、9週ぶりの値上がり。都道府県別には、値上がりが39都道府県、横ばいが4府県、値下がり4府県。全国最安値は滋賀県の137.3円(前週比0.1円安)、その次は、埼玉県(同0.5円高)の137.6円、最高値は長崎県の155.0円(同0.6円高)。最も値上がりしたのは3.7円高の宮城県(140.5円)、最も値下がりしたのは0.7円安の沖縄県(149.1円)。

先週の原油コストは大きく値上がりし、今週適用の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、2.0円～2.5円の値上げに分かれた。今週は、原油価格は値上がりし、為替レートも円安で、原油コストは大きく値上がりした。次週適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、1.5～2.5円の値上げに分かれた。次週(9月30日)のガソリンの小売価格は、値上がりが予想される。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (9/24)	前週 (9/17)	前週比	直近高値
レギュラー	143.8	142.9	▲ 0.9	08/8/4 185.1
灯油	90.2	89.8	▲ 0.4	08/8/11 132.1
軽油	125.0	124.3	▲ 0.7	08/8/4 167.4

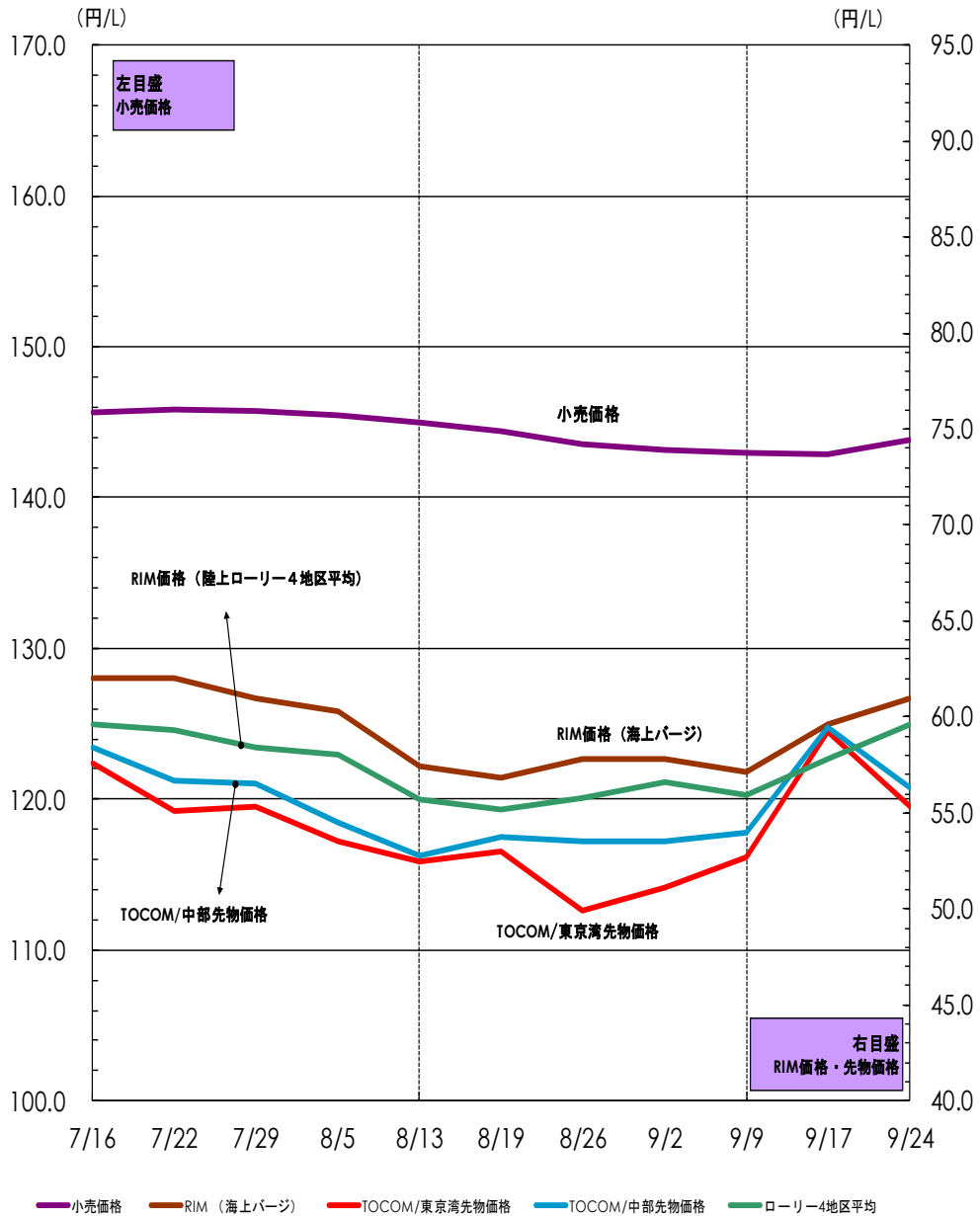
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2019/7/16 ~ 2019/9/24)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2019第25号)の公表は、10/4(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成31年3月末現在)は、7月31日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。